

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数の予測（2006年11月）

発表日：2006年12月28日（木）

～ 先行D I は再び50%割れを予想 ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ D I 先行指数は 20.0%、D I 一致指数は 50.0%を予想

12月28日時点で公表されている統計により11月の景気動向指数（1月11公表予定）の予想を行った。先行指数（速報段階10指標）、一致指数（同9指標）とも現時点ですべて公表済みである。

D I 先行指数は10指標中2指標が3ヵ月前比改善、8指標が悪化しており、20.0%が予想される。また、D I 一致指数は9指標中4指標が改善、1指標が保合い、4指標が悪化となっており、50.0%が予想される（個別指標の動向については図表を参照）。D I 先行指数は10月には50%を上回ったが、11月は再び50%割れに逆戻りだ。

	系列名	2005		2006										
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
先行 系 列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	-	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	-	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-
	新規求人数(除学卒)	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-
	新設住宅着工床面積	+	-	-	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+
	耐久消費財出荷指数(前年比)	-	+	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-
	消費者態度指数	-	+	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	+
	日経商品指数(42種総合) - 前年比	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
	長短金利差	+	-	0	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
	東証株価指数(前年比)	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-
	投資環境指数(製造業)	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	-
	中小企業売上げ見通しD.I.	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-
	先行指数	50.0	66.7	79.2	83.3	50.0	50.0	79.2	58.3	33.3	25.0	25.0	54.5	20.0
一 致 系 列	生産指数(鉱工業)	+	+	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+
	生産財出荷指数(鉱工業)	+	+	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+
	大口電力使用量	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+
	稼働率指数(製造業)	+	+	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+
	所定外労働時間指数(製造業)	+	+	+	+	+	+	+	+	0	-	-	-	+
	投資財出荷指数(除輸送機械)	-	+	-	-	-	+	+	+	+	+	-	0	-
	商業販売額指数(小売業) - 前年比	-	+	0	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-
	商業販売額指数(卸売業) - 前年比	-	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	+	-
	営業利益(全産業)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+
	中小企業売上げ(製造業)	+	+	+	-	-	+	+	+	+	+	-	+	0
有効求人倍率(除学卒)	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0	-	-	
一致指数	63.6	90.9	77.3	45.5	9.1	81.8	81.8	90.9	77.3	81.8	50.0	75.0	50.0	

(出所) 内閣府「景気動向指数」

(注) 1. 3ヵ月前の値と比較して改善は+、横ばいは0、悪化は-として表示。
2. 網掛けは第一生命経済研究所予測値

D I 一致指数は 50.0%となり、10月に続いての50%超えにはわずかに届かないと予想される。もともと、速報段階では未公表である稼働率指数については改善が予想されるため、改定値（1月18日公表）の段階では55.0%に上方修正され、50%を上回るだろう。景気動向指数上でも景気拡張期間のいざなぎ超えが確認される見込みである。また、その先の12月も50%超えとなる可能性は高い。D I 一致指数と連動性の高い鉱工業生産で12月もある程度良好な結果が予想されることや、採用系列の多くでは比較対照となる9月の

水準が低いことなどがその根拠だ。少なくとも年内については景気の回復基調が持続していることが確認されるだろう。

一方、D I 先行指数については 20.0%と再び 50%を割り込むとみられる。D I 先行指数は、10 月には 54.5%と 4ヶ月ぶりに 50%を超えていたが、まだ持続的に 50%を上回る状況には至っていない。景気に対して半年程度先行するといわれている D I 先行指数の動きからみて、年明け以降、景気はいったん減速する可能性が高いことが示唆されている。米国経済の鈍化に伴う輸出の減速や I T 部門の在庫調整等がその背景にある。

なお、第一生命経済研究所では、輸出の減速や I T 部門の調整は限定的なものにとどまるとみられることに加え、設備投資や個人消費を中心とする内需は今後も底堅く推移し、景気を下支えすると予想されることから、2007 年前半に想定される景気減速は軽微なものにとどまると判断している。

